



400年の歴史を持つ、朝市の立つ商店街の活性化 大野七間通り商店街

松井郁夫のふるさとでもある、福井県大野市のまちづくりです。「400年の歴史を持つ、朝市の立つ七間通り商店街を活性化してほしい」という希望にこたえ、景観を台無しにしていた真っ赤なスーパーマーケットの巨大看板をなくし、石畳と外灯で雰囲気の良い通りを復活させ、各商店の看板もトーンをそろえることを提案しました。

計画から3年後には、まちの人々の努力が実り、ステキなまちなみになりました。さらに、通りの中心にある七間ギャラリー内部には、商店街の人々が集まる小さな集会所も出来ました。

- 1 スーパーの赤い看板が目立っていた
- 2 ワークショップの結果をもとにつくったイメージスケッチ
- 3 3年後にはいい雰囲気になった
- 4 憩いの場、交流施設としてつくった「七間ギャラリー」
- 5 朝市のにぎわい
- 6 ワークショップの様子
- 7 おばあちゃんにインタビューする